

奨励賞



設計者

後藤道雄

沖縄県建築士会、社会的企業じねん(自然)組一級建築士事務所

戸建住宅(専用)

沖縄県中頭郡北中城村

龍が昇る家

構造・階数

木造

地上1階

敷地面積

269.91㎡

建築面積

121.47㎡

延床面積

98.75㎡

竣工

平成26年5月16日



A

選評

沖縄における台風による風害とシロアリによる虫害は予想以上に大きい。沖縄で伝統的な木造住宅建築が激減し、コンクリート住宅が大半を占めるようになった主要因の一つであった。

受賞作品は、「内地」から沖縄へ移り住んだ設計者の作品である。自ら定住した地域のものごたりを、いくつもの設計と建設行為によってつくりだそうとしている作者の主張が強く現れている。構法的検討も多く、風に抗するために枯木を大胆に使用し、大母屋と大梁で強固にかため、沖縄では難しい深い軒の出を実現さ

せた。また、激減してしまった同地の木造建設文化の復活をめざして、地元施工者との協調作業も進めている。段差のある敷地を利用した空間構成も、変化に富む内部空間をつくりだしている。

反面、作者の主張が、構造のあらわしの表現をいささか過剰に強めてしまっている傾向がある。過去に沖縄に存在していた伝統住宅への読み取りと理解をさらに行えば、より自然なかたちでの沖縄文化の復権をめざす余地があると感じた。作品を奨励し、さらなる今後の活躍を期待したい。(中谷礼仁)



B



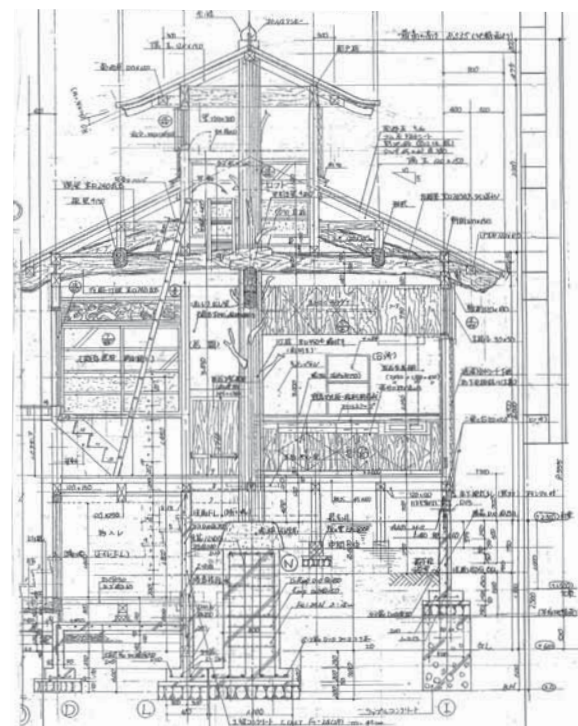
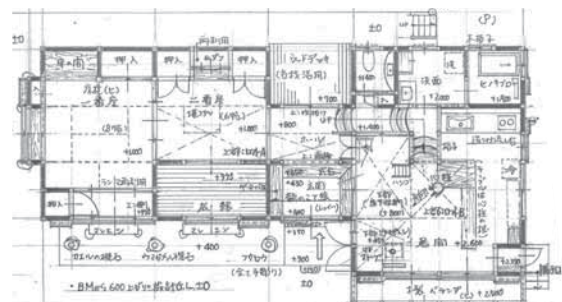
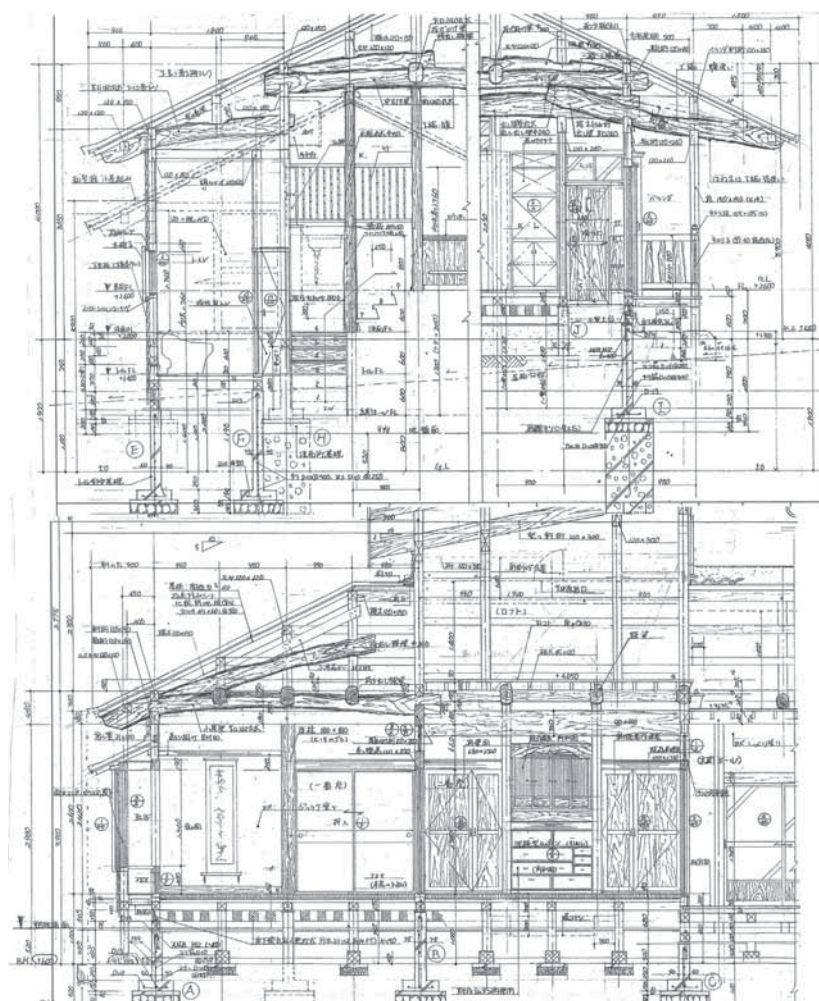
C



D



E



矩計図・平面図

A 南側鳥瞰

B 内観。建具はすべて木製建具。手刻みの小屋組を見るために天井はなく、小屋材の化粧仕上げとした

C 宮崎県の綾杉を使った心柱

D 木組みは折置き組やはね木を応用。躯体に釘・金物を一切使わない伝統構法

E 方形棟の頂点にある宝珠に向かって昇る籠。側面は漆喰仕上げ